



人と自然が共生した豊かな暮らしを追求する

▲雲の上のホテル

高知県梼原町のまちづくり

子々孫々に幸せな暮らしを
つなぐ理想郷を目指して

高知県梼原町は町面積の約9割を森林が占め、標高1455mにもなる雄大な四国カルストに抱かれた自然豊かな山間の町です。昭和38年には豪雪と台風第9号の影響により一時は壊滅状態となり、復旧・復興の中で人口減少が進展してしまいました。

先人が育んできた自然・独自の文化を生かしながら、「幸せな暮らし」を次世代につなぐために様々な取組が行われています。

近年では、世界的な建築家である隈研吾氏が手掛けた梼原産の木材を使用した建築物を見に、多くの人々が梼原町に訪れるようになりました。自然あふれる梼原町の魅力に惹かれた方々が移住・定住するようになり、人口減少にも歯止めがかかってきました。

今回は「地域の魅力を守り、次世代につないでいく取組」について、梼原町役場の立道様、吉岡様、竹倉様、山本様と集落活動センター・四万川推進委員会会長の空岡様にお話しを伺いました。

インタビュー

梼原町産業振興課商工観光係

主事 竹倉昌汰さん

梼原町総務課総務危機管理係

主事 山本智也さん

集落活動センター四万川

推進委員会

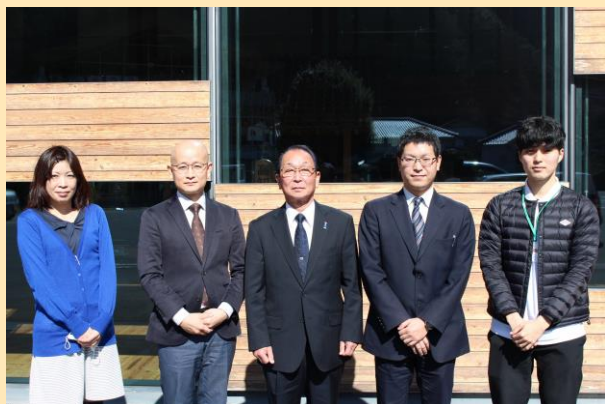
会長 空岡則明さん

梼原町森林の文化創造推進課

課長 立道斉さん

梼原町まちづくり推進係

係長 吉岡まどかさん





▲しまがわ市場兼観光案内所



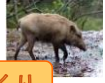
▲特産品のみかえり焼きもち

地場産品の販売促進

- ・新たな特産品づくり
- ・農産物をお金に換える仕組み（集出荷体制）

鳥獣被害に強い集落づくり

- ・猟友会の担い手育成
- ・わな猟免許取得の推進



地域を担う組織づくり

- ・安定した燃料供給体制
- ・複合経営の組織づくり（給油所・タクシー・農林業資材・集出荷）



集落活動支援体制づくり

- ・共同作業の支援
- ・地域の祭りごと
- ・地域文化継承の仕組み



集落活動の拠点「四万川交流センター」



産地・人づくり

- ・農林業研修生の受入
- ・集落営農の推進
- ・中山間直接支払制度



交流の田舎づくり

- ・田んぼオーナー制度
- ・グリーンツーリズム
- ・坂本龍馬脱藩の道
- ・自然植物園 花道楽
- ・旧小学校の活用



災害に強い集落づくり

- ・自主防災組織の充実「自分の命は自分で守る」予防意識の普及
- ・ヘリポートの整備



集いの場・健康づくり

- ・見守り活動
- ・いきいきふれあい広場
- ・受診率向上の取り組み（健康文化の屋づくり推進員）
- ・あったかふれあいセンター機能



生活支援体制づくり

- ・高齢者の移動手段の確保
- ・高齢者の買い物支援
- ・配食サービスの取り組み
- ・高齢者の見守り体制



▲集落活動センター四万川の活動内容

小さな拠点ゆすはらづくり

梶原町では、地域住民が主体となつて地域の課題を解決していく組織として6つの集落活動センター（小さな拠点・地域運営組織）を設置しています。

集落活動センター四万川のはじまりも、地域唯一のガソリンスタンドが閉鎖するという問題に直面した事がきっかけでした。地域で話し合い、地域が経営する株式会社四万川を立ち上げ、高知県が推進していた「集落活動センター推進事業補助金」を活用して、複合型燃料供給施設を整備しました。当初からガソリンスタンド事業のみでは経営が困難となることを見込んでいたことから、特産品の開発・販売の事業も展開し、現在では地域住民が自然と集まる小さな拠点となっています。町からの交付金もあり、開所から8年経った現在では、利益が出る状況にまで至っています。また、同地域では自宅葬が主流でしたが、葬儀ができる場所が欲しいという地域からのニーズに対応して、廃園となっていた旧四万

川幼稚園を改修し、総合催事業も行うようになりました。このようにスピード感をもって、地域の課題に対応できている理由としては、「地域を大切に守っていききたい。」と集まったスタッフの存在と、スピード感をもって支援してくれる行政が上手くマッチしたのだと思います。今後も新しい事業に取り組んでいきます。

また、四万川地区では、豪雨・強風時の倒木による停電や豪雪等が発生しやすい地域です。地域の災害の不安に備えて、集落活動センター四万川の電源供給設備やヘリポートの管理も行っており、その機能が地域防災上重要な役割もっています。地域課題を解決する「小さな拠点」の存在が、地域の住み心地を良くし、人と人のつながりを強め、まちの魅力を向上させているのだと思っています。スタッフの中には町外から移住してきた方もいます。集落活動センターの利用を通して、地域に馴染んでいただけるような取組も今後やっていきます。



▲ゆすはら産業担い手育成塾



▲ゆすはら地域おこし協力隊



▲森林セラピーロード



▲隈研吾氏が手掛けたまちの駅「ゆすはら」

町の魅力を創る担い手を育てる

産業の振興発展を目指すため、平成27年度より「ゆすはら産業担い手育成塾」に取り組んでいます。農業・林業・商工業分野それぞれに塾長を配置し、これまで約40名の育成を実施しています。梶原町内の事業者等が行う人材育成及び確保のための取組として、育成期間3年間は補助金を交付し、働きながら技術力を向上できるものとなっています。本事業では、梶原町に住んでいた方がUターンをして、家業の跡継ぎとなったり、移住者を新規採用・育成するなど、地域の産業の担い手を育てるものとなっています。加えて、国外からの観光客が多く訪れる地域であることから、外国語指導助手の方にご協力いただき、英会話による接客の指導を行うなど、地域を支えている働き手の更なる技術向上にも取り組んでいます。今後は、既往の技術向上や新規採用育成から更に踏み込んで、より実践的な塾の形を検討していきます。

豊かな森林を未来につなげる

森の資源が循環する公民協働のきものに優しい低炭素なまちづくりを掲げ、森づくりを主体としたまづくりに取り組んでいます。風力施設や太陽光発電の推進、木質イオマス地域循環モデル事業など生可能エネルギーの利用にも取り組み、環境モデル都市として認定されています。

近年、林業従事者の減少・高齢化が課題となるなかで、地元の製材・建設会社、林業事業者の有志が「令和の森林づくり協議会 ReMORII」を設立しました。同協議会では、「ゆすはら地域おこし協力隊」を雇用し、会員事業所で林業の担い手を育成しています。研修期間は3年間で、今後の5年間の間に20名を育成する計画です。

森林の手入れを行い、森林と共生していくことは、豊かな自然環境を保全し、森林の保水力の維持やCO2の吸収・削減など地球環境にとっても多面的な効果を発揮します。森林の再生が町の持続性を高めるものと考え、引き続き、次世代へより良い環境を引き継ぐ社会の実現に向けて取り組みます。



▲リノベーションした空き家



▲集落活動センターと協力した移住相談フェア



▲梶原町生涯学習交流センター完成イメージ



▲太郎川公園周辺

若い世代に選ばれる魅力

豊かな自然の中での田舎暮らしを求めて、多くの移住相談が来ています。近年では新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、田舎で子育てをしたいという相談も増えています。梶原町では、空き家を綺麗に改修した上で、安く貸し出しており、この6年間で200人以上の移住者を受け入れています。

また、町内の若者で構成される「若者定住対策審議会」の活動があり、若い世代に梶原町の魅力を知っていただく取組も行っています。令和2年度は、梶原高等学校の生徒に「梶原町に何があるか知る町内研修」に参加していただき、町内外から入学した生徒が梶原町の魅力に触れる体験をしました。審議会の取組の中で、地域と触れ合う体験を通じ、町に定住することを決めた高校生もいます。集落活動センターの特産品を販売する「ゆすはらフェア」と移住相談や梶原町を知ってもらうための「暮らそう梶原フェア」を同時開催、地域と協力し梶原町をPRしています。梶原町に子

どもの入学や就職等で移住したい方のため、受け皿となる住宅を計画的に確保し、今後も選ばれる町を目指していきます。

これからの梶原町

近年では交流人口の拡大を目的に、集落活動センターの中心拠点及び町の観光拠点として、「太郎川公園の再生」を予定しています。地域と合意形成を図りながら、老朽化した「道の駅ゆすはら」の再整備等、公園周辺の再生を進め、梶原町の更なる魅力を発信できるように取り組んでいきます。

また、梶原高等学校の生徒が入居できる「梶原町生涯学習交流センター」がオープンし、町外の入学者が梶原町で生活をしながら魅力に触れる体験をすることで、未来の梶原人を育てていきます。

まちづくりのポイント

梶原町の事例は、「人と自然の共生」に向けて集落活動センター等をはじめとする地域と行政が連携し、町の魅力・住み心地を向上させ、手厚い移住・定住施策により、町内外の方から選ばれる町となっていると考えられます。